

## 第5章

# 全国から寄せられた支援

寄付金 (平成25年1月31日現在)

2億2,990万2,064円(917件)

支援物資 (平成25年1月31日現在)

943件(個人420件、企業・団体491件、自治体など32件)

●主な支援物資

- パン、おにぎり、弁当などの食糧品
- 水、お茶などの飲料品
- 衣類、毛布、タオル、紙おむつ、カイロ、ティッシュ、歯ブラシ、石鹸などの日用品等



義援金 (平成25年1月31日現在)

10億914万4,372円(13,681件)

■村へ直接寄せられた義援金

8億6,786万1,396円

村へ直接寄せられた義援金は、被災者の皆さんに公平に配分するために、村議会、民生児童委員協議会、社会福祉協議会、農業委員会、商工会で構成する「震災義援金配分委員会」で配分方法等を検討し、順次配分しました。

[配分状況]

区分	世帯数	単価	配分額	
1次	震災見舞金	711	50,000円	35,550,000円
	全壊	32	2,000,000円	64,000,000円
	大規模半壊	21	1,000,000円	21,000,000円
2次	半壊	142	500,000円	71,000,000円
	一部損壊	473	250,000円	118,250,000円
	震災見舞い	51※	50,000円	2,550,000円
	コミュニティ	31集落		29,999,999円
	小計			306,799,999円
3次	個人所有住宅	667	500,000円	333,500,000円
	村営住宅等	52※	100,000円	5,200,000円
	コミュニティ	31集落		30,000,000円
	加算 住宅新築	36	500,000円	18,000,000円
	住宅購入	5	300,000円	1,500,000円
小計			388,200,000円	
4次	震災見舞い	666	190,000円	126,540,000円
	小計	52※	38,000円	1,976,000円
合計			859,065,999円	
		残額	8,795,397円	

※村営住宅、教員住宅等に居住する世帯への配分

■日本赤十字社・中央共同募金会からの義援金

1億4,128万2,976円

[配分状況]

区分	世帯数	単価	配分額	
1次	関連死	3名	350,000円	1,050,000円
	全壊	33	350,000円	11,550,000円
	半壊	172	180,000円	30,960,000円
小計			43,560,000円	
2次	関連死	3名	695,808円	2,087,424円
	全壊	33	695,808円	22,961,664円
	半壊	172	347,904円	59,839,488円
小計			84,888,576円	
3次	関連死	3名	10,000円	30,000円
	全壊	33	10,000円	330,000円
	半壊	172	5,000円	860,000円
小計			1,220,000円	
4次	関連死	3名	48,200円	144,600円
	全壊	33	48,200円	1,590,600円
	半壊	172	24,100円	4,145,200円
小計			5,880,400円	
5次	関連死	3名	8,000円	24,000円
	全壊	33	8,000円	264,000円
	半壊	172	4,000円	688,000円
小計			976,000円	
6次	関連死	3名	25,000円	75,000円
	全壊	33	25,000円	825,000円
	半壊	172	12,500円	2,150,000円
小計			3,050,000円	
7次	関連死	3名	14,000円	42,000円
	全壊	33	14,000円	462,000円
	半壊	172	7,000円	1,204,000円
小計			1,708,000円	
合計			141,282,976円	

震災直後から多くの義援金、寄付金等が寄せられ、住宅等を損壊した被災者の皆さんにとって、早期の生活再建への温かい支援となりました。

全国から寄せられた支援  
義援金・寄付金、支援物資

# 励ましのメッセージ

県内をはじめ、全国の多くの皆さんから激励の寄せ書きや絵手紙などが届きました。寄せられた温かいメッセージに、村民の皆さんは心を癒やされ、励まされました。



栄村絵手紙「芽吹きの会」会長  
わたなべ 渡辺 つや子さん

て、ただの残骸として足元に転がっていました。自宅は全壊の判定を受け、もうここでの生活は無理なのだろうと思うしかありませんでした。

## 全国から届いた励ましの絵手紙

東日本大震災の恐怖に怯えながら、寝静まった翌未明のことでした。まだ辺りには背丈ほどに雪が残る中での被災でした。一緒に暮らす夫と義母の3人で、なんとか家を出て、避難しました。道路はあちこち隆起し、何度かの余震で雪の表面に亀裂が入るのを目の当たりにし、今までの生活の中で、大切な意義のあるものが、色あせ

そんな思いの中、避難所での生活に届けられた絵手紙は、無彩色の暮らしに一筋の光を射し込んでくれたかのようにでした。しかし、とても有り難いと思う反面、震災前と同じような素直な気持ちで目を通すことができず、それから「芽吹き」や私宛てに届いた全国各地から沢山の絵手紙を見るたびに、流れる涙を止めることは出来ませんでした。

震災から瞬く間に3か月が過ぎ、ようやくもう一度これまでの生活を取り戻すことが出来ればという願いが、頭を持ち上げるよう

になりました。そして、「芽吹き」の会」では、震災以降、発行できない季節のたよりや会員の思「しゃかえ」を発行し、感謝の気持ちを伝えることが出来るようになりました。それは、全国各地からの慈しみに溢れた応援の絵手紙、心からの温かい激励の絵手紙が大きな勇気をくださったからであり、絵手紙の一枚一枚が冷たく歪んだ心をほぐしてくださったからでした。

## 3.12を忘れない そして伝えていこう

震災の日からひたすら絵手紙を書き続けてくださった方々、それぞれの活動をして、義援金や支援物資を集めて送ってくださった方々、栄村に温かい思いを届けてくださり、ずっと見守っていただ



芽吹きの会の皆さん

いた多くの方々のことを忘れることはありません。

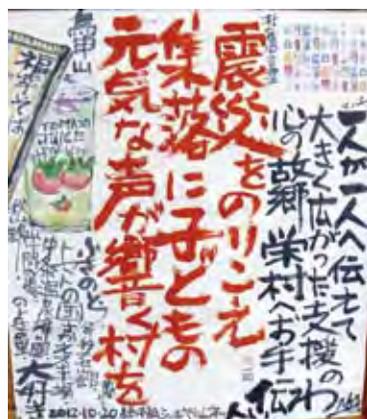
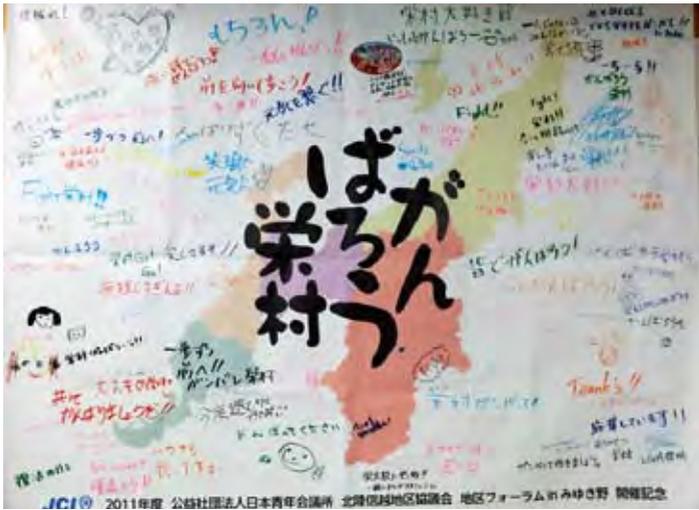
この震災は教えてくれました。人の強さ、温かさ、温もり、分かち合えることの喜び、希望、どんな逆境にあっても人は立ち上がる意思があること。

決して良い経験ではなかったけれど、大切な経験になったことを次の世代に語り継ぎたい、伝えていかなければならない、そうしていくことが使命でもあると思っています。



- ① 全国から寄せられた絵手紙など
- ② 震災後1年目に支援いただいた方に礼状と一緒に送った村からの感謝の絵手紙





紙面の都合により、一部しか掲載できませんでしたが、この他にも大勢の方から絵手紙や励ましのメッセージをいただきました。